

【令和6年度九州地区漁港漁場協議会講演録】

期 日：令和6年 7月 4日
場 所：対馬グランドホテル

海の困りごとを“商い”に ~ 海業のストーリー

(有)丸徳水産 専務 犬東 ゆかり



1 はじめに(海の中の困りごと)

皆さん、こんにちは。ようこそ、対馬へお越しくださり、ありがとうございます。私は、有限会社 丸徳水産の犬東です。対馬で一番のおしゃべりおばさんです。きっと、長崎県でも一番かなと思うぐらいのおしゃべりなのですけれど、今から、「海の困りごとを商いに」という表題をつけさせていただいたのですが、対馬の海には、たくさんの困りごとがあります。

では、その困りごとに蓋をしてしまうのではなくて、その困りごとを有効に活用しようというところを今日はお話をさせていただきたいなと思います。

先ほどから、皆さん、ブルーカーボンだったり、藻場の話だったり、磯焼けの話だったり、議題に上がっていましたが、対馬も例外ではないのです。非常に磯焼けが進んでいます。皆さんは、現地で海に入って、磯焼け見られたことがありますか？ なかなか磯焼けについて机上で発言されていても、実際に磯焼けを見る機会はないと思います。では、今日は、（スクリーンで）対馬の私どもの海の中を覗いてもらいますが、ノコギリモクがあるところは対馬島内でも稀です。ノコギリモクでさえも残っていれば、非常にいいのです。ほとんどが、今から画面に現れるこういう風な砂漠のようになっている磯焼けのところがほとんどなのです。



そして、対馬ではその大事な私どもの海藻を食べてしまう食害魚がいて、イスズミなのですが、これもうちの近くで、2019年のものです。これはアイゴです。これは定置網ですけど、中はほとんどアイゴと言っていいほどアイゴばかり入っています。対馬弁で「こらほど*」のアイゴと言います。

(注) * 「これぐらい」多いの意味



2 対馬市の食害魚対策 ~地域が一体となつた仕組み~

「こらほど」アイゴだったり、イスズミだったりが非常に多いので、対馬市では独自の対策を講じられており、これは全国的でない仕組みだと思っています。対馬市には食害魚と呼ばれる魚たちを集めの仕組みが出来ました。集める仕組みの中に、定置網で獲るところにもお金が落ちる。では、獲りました。では、運びます。物流業者にもお金が落ちる。そして、うちの加工場に運ばれました。加工業者にもお金が落ちる。そこで、加工するにもマンパワーが足りない時があります。多い時は食害魚が5tやっています。1回で5tをどうしよう。もう、今日は2tしかさばけない。じゃあ、残りの3tは保管しようとしますが、うちも加工場も経営していますので冷凍庫はもちろんあります。でも、入りきらないという時には、民間の冷凍会社が「持っておいで、いいよ。」と言ってくれるので。それで、保管するところにもお金が落ちるのです。WIN・WIN（双赢）の関係なのです。この集まる仕組みが、非常に素晴らしいできています。

そういうことで、去年は、26.4t、うちが受け取って有効に活用しました。有効とは食用のことです。食べてもらうように活用しています。これは、全国的に類を見ない取り組みだと自負しています。「比田勝市長、きっとそうですよね！」

この食害魚たちが、特にイスズミがどれくらい海藻を食べているのかというところで、（スクリーンで）このように海藻をたっぷり食べているのです。こんなに非常に食べています。対馬のイスズミは3キロアップにも大きくなります。



有効に活用すればたんぱく源 23年度26.4トン



海藻たっぷり食べている



3 試行錯誤からブレークスルーへ

それでも、以前では、食害魚は駆除されて、ほとんどが焼却処分されていました。よくてもたい肥だったのです。そこで、2019年（令和元年）、対馬市水産課の方とコーディネーターの方が、突然私のもとにお見えになりました。話を伺うと、「イスズミをどうかしちゃいけど、誰に言ったらよかろうか？」と言って、対馬中、聞いて回られたそうです。すると「犬東さんのところへ行きなさい。」と言われ、丸徳水産が自然と活用の取組みに関与することとなりました。

私は、島内で2016年からイスズミを駆除されているというのを聞いて、とにかくおばあちゃんなので、もったいないと思っていました。では、有効に活用しようというところで、もうすでに試作品程度を作ってはいたのです。それで、その繋がりもあってお声かけをいただいたようです。

そこで、2019年からこれ本格的に気合い入れてやりました。その時、特にわたくしは「イスズミおばさん」としても、試作品を完成させるにはどうしようと非常に考えたわけです。イスズミは無毒ですが、でも美味しい。私は魚がさばける。下処理はできる。イスズミについてはアイゴにある毒針や棘もない。手に入れやすいし、いなくなれば皆さんや、対馬の人は喜ぶこと間違いないです。この非常な厄介者の有効活用の課題をいただいて、本当、～ 対馬一イケメンの愛する夫がハズバンドです。～ その夫のことも忘れ、試作品を2019年からいろんなものを本格的に作りました。また、会社は飲食店もしているのですけど、飲食店の本業のことも忘れ、もう8割～9割は、イスズミのことしか考えていませんでした。これは事実です。イスズミがどうしたら美味しいになるのだろう。この臭い魚がどうしたら有効に活用できて、入り口はあるけど出口はどうしたらできるのだろう。明けても暮れても一年間そのことだけを考えつづけ、試行錯誤の日々でしたが前進することのみを考え続けました。

当時は、とにかくさばくしかないのです。このようにどんどん入って来る。もうとにかくさばくしかないと。しかし、自分は魚がさばけたのです。さばいてさばいて、さばきました。来る日も来る



捨くしかない!!



日もさばきました。さばいたら、だいたいこういろんな感じがわかってくるのですね。（スライド）この満面の笑みで見てください。問題解決への確信を得たころの自分です。

ところで、五年も経てば（自分を指さし）、こうなります。女子も怖いけど、皆さん男子も怖いですよ。真ん中の写真から比べると、五年も経つとこんなになります。こういうふうに頑張ってさばきました。

ここで、2019年から五年間ずっと活用したものです。日頃、その食害魚のことだけではなくて、皆さんご存知と思うのだけど、マインドマップというのを活用しました。これは、皆さん方もいろいろなことで活用していただけるといいと思います。このマインドマップには、まず、イスズミを、真ん中にこう書いて、いろいろ矢印作っていくのです。食べない、もったいないとか、商品化、タンパク、貴重なタンパク源だとか、いろいろ、真ん中のイスズミから、いろんなことへ行くのです。

例えば、ここにいらっしゃる会場の方も、部下が言うこと聞かないとか、田中部長さん、真ん中に部下が言うこと聞かない。どうしようと、こう矢印使うとかいろいろ書いてですね。皆さん、このマインドマップ活用されたらいいかがでしょうか。例えば、長崎県の水揚げ、魚が非常に少なくなっているとお聞きしています。でも、長崎県内でイスズミ、アイゴを取れているのです。新たなタンパク質になるのではないか。新たな水産資源になるのではないかっていう逆転の発想もあり、有効に活用しています。

4 商品化の取組み ~「味方を作ろう作戦」~

一応、イスズミのさばき方の課題を乗り越えましたが、これからが問題です。今まで食べなかつたイスズミをだれが食べるのかとういうことです。このため、いろんな料理を作るわけです。飲食店もしていますので、料理についてはちょっと得意なのです。ですから、こういうふうにいろんなものを作りまし



た。いろんなものを作りはしましたが、どうしたらいいのだろうと、次は皆に食べてもらう魚食普及が新たな課題となりました。

そこで、「味方を作ろう作戦」を作るわけです。頼りになる味方を作るんですね。この味方づくりが何事も大事だ

と思っています。課題解決のストーリーからあらゆることを共有するのです。課題を共有する対馬市の水産課は私からの電話がかかってくると嫌だったと思います。2019年はかなりかけました。もう交換士の方も、この声の宛先は水産課かなって思うぐらいかけました。そして、学校給食の先生方も巻き込むわけです。給食の先生方に、食べてもらうのです。すると給食の先生方が、もう皆さんいい方ばかりで、五年経った今でも応援団です。今でも、対馬市の学校給食には食害魚が出るのです。ずっと15年間出ています。子どもたちも、ちゃんと食べてくれるのです。ここは、ほんと味方作りが大事です。

漁業者も巻き込みました。私はこのように口がうまいです。ですから、漁業者もいろんな方を巻き込んで、漁協組合長も巻き込みました。そういうふうにして、何度も何度も試食会を重ねるのです。（スライド）この方ですね、こちらの端にいらっしゃる方で、うちの漁協組合長、前の組合長です。当時、組合長の携帯電話には、着信「犬東ゆかり」と出て、もう奥さんが、愛人じやないかなっていうぐらい電話をしました。「組合長、今どこですか？ 組合長、こんな品が出来たんですけど、食べてみませんか？」、「いや、犬東さん、またイズズミやろ！！」と言われましたけど、それぐらい熱くなるならないと組合長はこっち向いてくれないので、もうすぐにいろんなことを共有するのです。比田勝市長にも、試作品できると市長室に預け、これ市長にお願いしますって言って、じゃあこの便で預けようとかって言いながら作って食べてもらうのです。何より、こここの漁協組合長会で食べてもらうことにしました。それで、「組合長会で試食会開かせてください。」と言うと、当初、ダメって言われました。女人禁制、部外者禁制だそうです。ねえ、今時そんなことがありますかね？ 女人禁制ですよ。（臨席の）植木組合長、どうでしょう。ここ対馬の地元の組合長がお見えですけど、じゃあ私も、組合長さんたちに負けておられ



ません。組合長会の開始前だったらいいじゃないか。そうでしょう。組合長会が始まる前だったらいいと思って、鍋とお椀と試作品、フライパン、卓上コンロ持つて出かけました。そして、(試作品を)バーって並べて、バートと話して、この時にうちの漁協組合長を味方につけていたので、組合長がこう色々ですね、他の組合長を丸め込んでくれるので。それで、イスズミは食べられるのだ、有効に活用できるのだっていうことが対馬中の組合長さん方がわかつていただいたわけです。だからこういうふうに共有は大事だと思っています。真ん中の下の写真は、漁協女性部です。女性部の研修会でも、私、漁協女性部の対馬の会長を22年ぐらいしています。ですから、36歳の時からやっていますので、ずっと食べてもらって、こういうふうに味方をつけていきました。

何度も重ねた試食会



5 新たなプロジェクト始動 ~「そう介プロジェクト」~

そこで、食害魚のイスズミに名前を付けるのですね。そこで、「そう介」という名前つけた。イスズミになんとか殿とか、なんとか姫とかつけても、名前負けてして売れないとと思ったのですね。私は商売人でございます。だから、あのイスズミには物語が必要だと。創意工夫で美味しい惣菜に変わるっていう物語を作つて、介護の介が損なことを助けるっていうところで「そう介」とつけました。これは藻場を守るという壮大なプロジェクトであるというところのそう（藻）も引っ掛けました。「そう介」のメンチカツっていうものを作りました。



そう介メンチカツの誕生！！



子どもたちも大好評です。これが給食で出ると非常に喜びます。うちの飲食店も、テイクアウトでも出るし、もう本当に注文いただいている。大人気商品になりました。2019年のファーストフィッシュ部門に出た時に、漁業者からとか「フィッシュワングランプリで出るんですか?」と言われるのです。「イスズミで何かしるけど、なんができるげなか!」とか「おなごがなんかできるげなか!」と、2019年、対馬弁でそう言われました。それで、私と私の心に炎がついて、メラメラですね、頑張るぞっていう感じでやって、見事グランプリいたきました。(皆さん、拍手!)

それで、この時、グランプリでもいただいたのですが、私は自称を日本一だと思っていることがあります。ほとんど毎日何かしらその食害魚と関わっている。飲食店でも毎日毎日食害魚を売っている。もうそれから、小中高生に食害魚の話をしたりとか、海のことを話したりしている回数だったりとか、いろんな方に話しているのとか、絶対日本で一番よねって思っています。そして何より、新たな食材にするのだという意欲。これは、誰にも負けていないと思います。次のライバルが現れても、私には勝てないと思います。

それから、いろんなピンチが、今、対馬の海の中、問題があります。このビンチをチャンスに変えようと。ヒジキとか、もうほんとワサワサでした。でも、もう今は皆無です。なら、作ればいい。養殖すればいい。しかし、一方で漁村のマンパワー足りない、マンパワーが足りないという話はよく聞きます。じゃあ、SNSで、種付けと収穫のボランティアを募れ

皆さんのおかげでいただきました



食害魚の自称日本一かな自画自賛

- ・ほとんど毎日何かしら食害魚と関わっている
- ・食害魚料理の、種類、作った回数、量
- ・毎日食害魚を加工してお金に換えている
- ・食べて、食べて、と試食を押し付けた回数
- ・小中高学生相手に食害魚の事話した回数
- ・市役所水産課に食害魚の事で電話した回数
- ・食害魚を新たな食材にする意欲

ピンチをチャンスに

企画その3 天然がないなら養殖で 収穫ボランティアで労働力確保

ばいいのだろうというところで、こうしてチャレンジする。あのロープに、種糸をまいてしました。種付けも、近頃ではボランティアを募ります。収穫は、人気で非常にボランティアの数が多いです。もう喜んでやりたいと、もうすぐに締め切らないと定員いっぱいになってしまいます。

陸で生活する人は、漁業者の日常は非日常で、もう楽しくて仕方ないのです。そういうところで、こういうふうに収穫しますが、島の海にはまだまだ食害に遭わないように囲ってあげれば、海にはまだ育てる力があるのです。それで、私たちが諦めると全部終わってしまうのです。諦めたらいけないです。私は食害魚のイスズミやアイゴを根絶やしにしようとは毛頭思っていません。食圧と海藻の生育バランスが合えばいいのです。そこをやっていかなくちゃいけない。それから海藻が磯焼けでないという。いや、磯焼けが進んでいることで海藻がないですね。するとウニの身入りが悪くなる。じゃあ、ウニの身入りが悪いなら、海の中でウニの養殖をすればよい訳です。ウニの養殖は、自社の飲食店で出るキャベツの廃材と地元のスーパーが協力してくれ、キャベツの外側を取ってくれて、それで養殖しています。ただのものでやっています。



大量収穫 海にはまだ育てる力がある！



飲食部と地元スーパーの協力で



6 地域資源を海業へ(新たなるチャレンジ)

これからがちょっと皆さん本題です。海では、沿岸の漁業者はもう非常に所得が減っています。海藻はなくなって、特に素潜りとか大変なことになっています。アワビも取れない。ツシマヤマネコって皆さんね、さっき資料の中にあ

ったと思いますけど、ツシマヤマネコに会うより、対馬のアワビに会う方が難しいです。それぐらい潜っても取れません。ザザエも非常に少なくなりました。それだったら、そういう一番弱い漁業者を観光のアテンドに仕立てればいいのだ。ある日、ビビビビって神が降りてくるのですね。で、これを漁業者に話すのです。話すのですが、なかなか漁業者は手ごわいです。

海を学ぶその体験型ツアーを企画しました。漁業者にアテンドしてくださいとお願いするのです。「じゃあ何をアテンドすると?」「あの、磯だけ見せてください。」と言って、「はあ、磯だけ見せんとや。なんでそっで面白いんないが?」と言われるのですね。「いや、海ゴミも見せましょう。」「海ゴミ見せて、なんが楽しいげな。ゴミやなんや見せて!」って言われるのです。「いやいや、そう言わんとて。そして、その台風でずれた防波堤を見てもらいましょう。」とかね。そして、「イスズミのお腹も割って、食害がどんなにひどいものか、中の匂いも嗅いでもらいましょう。」って言うのですね。漁業者から全部否定されました。でも、「私に騙されたと思ってください。」と、「ここ一年間の投資はですね、うちの会社が持ちましょう。」と、漁船保険代金、「いやもううちが持ちます。」とね、一年で遊漁船の登録、「じゃあうちが申請します。」、書いたり読んだりは不得意です。漁業者ですね、どっちかというと、「じゃあもうそれは私たちがやりましょう。」と、「いろいろいろいろですね、諸手続きはもう私たちがやります。」

しかし、「海上保安部呼びますので、救難事故の対応とか、ライフジャケット着用のこととか、勉強会にはぜひ出てください。」と言ったら出てくるのですね。こう出てきてくれて、「じゃあいいですかやりますよ。」っていうところで、ゴーができる。2時間半のツアーです。いろいろいろいろ学習してもらいます。海ゴミ見てもら

ピンチをチャンスに

企画その4 漁業者×観光ツアー

手ごわい相手との戦い

海を学ぶ体験型ツアーの企画

漁業者がアテンドする
投資を少なく、手持ちの漁船で
海ゴミ、磯だけを見せてお金を稼ぐ
時にはガングサセ駆除作業もしてもらう
マグロのエサやり体験
波で浸食された岩肌、台風でずれた防波堤
殿様釣り

→漁業者の変化

海を学ぶ体験型ツアーの開始





う。磯焼け見てもらう。防波堤も見てもらう、ガンガゼも見てもらう。どうかしたら駆除までさせています。最後に、楽しみの釣りが待っている。その2時間半ぐらいで7,500円です。お一人ですね、乗せると7,500円お客様にいただいています。でも安いって言って、「こんなね、楽しいことはない。そしてこんな勉強になったことはない。」とて言ってお釣りはいらないっていう方が結構いらっしゃいます。リピーターで4回乗られた方がいます。皆さん、今日は7,500円のツアーのちょっと動画を披露します。今から船に乗った気分でライフジャケットつけた気分で、うちの宣伝用の動画を今から流します。（ビデオ放映）

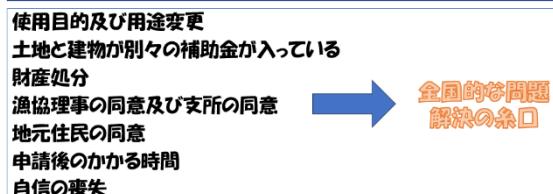
マグロの餌やり体験もできます。漂着ゴミも見てもらいます。そういうふうにして、いろいろとあの様な体験をしてもらえます。マグロに餌やりをすると、もう非常に喜ばれるのですよね。それで、漂着ゴミを見てもらうと、私たちが陸で生活する者たちがどうしたらいいのだろうっていう問題提議ができる、大手企業さんの研修視察で非常に受け入れが多いですね。お隣は韓国からも、環境問題に興味がある方の団体さんとかが入ってこられました。最近では、韓国日報から私たちがやっている取り組みの取材が、この12日に取材を受ける予定にもなっています。

次の課題として、先ほどから田中部長さんがいろいろお話になっていました。その旅行の施設ですね。もう今、漁師さんが非常に少なくなっています。漁協が合併して、漁協の建物だったところは幽閉施設になっています。対馬も例外ではありません。きっとお隣の壱岐も五島もそうだと思います。各県でもそうじゃないでしょうか。それで漁村に交流人口をするために、宿泊施設、の漁協が持っていた幽設を宿泊施設に変えよ思っています。それ今までさしく申請の途中ざいます。よろしくおします。なかなかこれードルが高くて、もう当、普通はですね、心が折れないポジティブな私も、もう何度か、心折れそうな申請書の書類の作成だったりとか、漁村の皆さんへの説明だったり、地域住民の方へだったり、もういろいろ申請は大変だけど、でもここは、一個一個クリアしていく、交流人口を増やすために、漁村で今も寂れていっているところに火がともるようなそういうイメージをして宿泊施設の検討に取り掛かっています。

7 結びに(「三方よし」の精神に学ぶ)

最後にですが、私たち漁業者は、継ぎ手がおらん、継ぎ手がおらんっていう話をよくされます。私はこういうふうに口ウマなので、3人の息子が並んでいるのですけど、3人とも各部門を継いでいます。真ん中が満面の笑顔なのは、愛するハズバンドなのですけどね。私は彼を食害魚と同じように、彼が亡くなる直前まで有効に活用しようと思っています。彼もそれは分かっていると思います。彼は彼で私を有効に活用しようと思っています。どっちが、最後まで活用できるのでしょうか（笑）。

ハードルの高さに何度も心が折れそう



ピンチをチャンスに

企画その5 漁村(漁協幽閉施設) ×宿泊 漁村の活性化をめざし

増や
漁村
閉施
うと
で、
でご
願い
もハ
本

新たなる分野へ



今、私たち丸徳水産は正直言ってちゃんと利益が取れています。子どもたちにも、人並みに給与も払って賞与も払って、休みもやります。そういう企業になるためには、「三方よし」の商売、これ非常に大事だと思います。買い手良し、売り手良し、世間良し。このどこかが欠けても、長続きしないと思います。36歳の時に法人化して、何にもない行商から始まりました。本当に、海水を汲むポンプさえなくて、バケツに紐つけてつるべを作つて、加工をしました。イカの加工をして、アジの干物を作つて、そしてそれを売りに回つて今日に至りました。当時、借金抱えて、主人は脱サラして素潜りになり、子供を産んだばかりで、どうしようと思ったあの頃があります。でも、私たちだけ良くなつたって何にも生まれないです。地元と一緒に良くならないと、地元が応援してくれないと何にも生まれないです。もう子どもたちには、口を酸っぱくして言つています。漁業者に伝えたいことは、儲ける商いをすればいいんだ。そこにはヒントがいろんなところに落ちているのじやないかなと、困りごとも有効に活用すれば、商売になるのじやないか。まずは子どもたちに誇れる商売をして、後継者を作ることも大事な一つじやないかなと、このおしゃべりな私は思ひ、あちこちでしゃべっています。

継承したくなる商いに



どうもご清聴ありがとうございます。

【犬東ゆかり氏からのお知らせ：2025年8月】

「対馬では(特に美津島町漁協にて)藻場の回復が見られるところが出てきました。今年8月上旬に撮影されたものです。」

ホンダワラの仲間（対馬市美津島町 2025）



ホンダワラの群落（対馬市美津島町 2025）





水イカ（アオリイカ）の卵（卵嚢）

【あとがき】

本講演は、令和6年度九州地区漁港漁場協議会の場において発表され、会場では犬東氏のユーモアを交えた前向きな話題で予定時間を大幅に超過するほど大変な盛り上がりを見せました。

県内各地では、海業振興をはじめ地域での実践活動に取り組まれているところですが、氏の卓越した行動力をはじめ課題解決に向けた実践活動のプロセスは大変参考となるものであり、今回、講演録にとりまとめご紹介するものです。